

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
会長 小川郁男 様

施設名 高齢者ケアセンターゆらぎ
氏名 中台衣久美

研修会報告書

研修会名	第2回相談関係職員研修会				
日時	平成29年12月6日(水)10:00～16:00				
会場	埼玉県県民活動総合センター 第1会議室				
講師	講義1 大里広域地域包括支援センターぬくもり 看護師渋沢久美子氏 講義2 見沼区南部圏域地域包括支援センター敬寿園 主任介護支援専門員長崎史恵氏・社会福祉士 清水佐和子氏				
参加人数	45名				
研修委員 (氏名・施設名)	高齢者ケアセンターゆらぎ 中台衣久美・ハーティハイム 藤本武史 あげお愛友の里 宮河恭介・小江戸の郷 吉野まどか はなぶさ 篠塚伸子・あすかHOUSE松伏 永井千恵				
研修会のテーマ	『地域包括ケアとソーシャルワーク実践～どんな視点で支援をしますか～』				
研修会の評価	アンケート回収枚数	43 枚	3. グループワーク	4.2 5	
	1. 研修内容と目的の一致	4.3 5	4. 研修会の進め方	4.3 5	
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	～総合評価点～	21 25
		②	4 / 5		
③		/ 5			
④		/ 5			
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修委員としての感想等を記述)				
	<p>第2回はこの数年間の終了後アンケートでも多く意見が寄せられていた、“いわゆる困難事例”について学ぶ機会として、午前中は地域の中で直面する課題に日々取り組まれている地域包括支援センターの方に講義をお願いした。日本の現状と課題、そして、その地域の特性や文化をふまえた上で日々の業務に携わられている現状と、更に相談が増加傾向にある事と包括支援センターで関わる方の課題が複雑化していること知ることが出来た。そして、これまで各施設の入所基準には当てはまらない事も多く入所を断られてしまう状況である為、現代の社会情勢や高齢者の動向を知ったうえで、条件に当てはまらない方に対してどうしたら受ける事ができるのか考える視点の必要性が理解できた。その人がその人らしく暮らしていく為に、様々な機関や専門職が同じ意識を持って関わっていく事を学ぶことが出来た。午後は、実際に研修委員3名の関わった事例を通じ、参加者自身が日頃の実践をする中でどのような視点で支援をしているのか、グループワークを通じて振り返る機会とした。午前の講義でも話があったが主張がハッキリしている方、身寄りのない方が増えているという事で、今回の事例もその二極化する内容を表しているようだった。3つの事例に関わった相談員の共通した事としては、ご本人の想いを中心に支援内容を検討している事、そして、相談員だけではなく関わる老健の多職種や地域の事業所と同じ方向で支援ができるように日頃から関わりを持ち働きかけていることと思う。いざという時に協力をしてもらえる(協力をする)には、日頃の信頼関係が何より必要であることを改めて痛感する。地域から必要とされる老健である為にも、現在の社会背景などをふまえて目の前の方に何が出来るのか？どうすれば支援ができるのか？過去に捉われず検討する姿勢が大切だと気付く事ができる研修会だったと思う。</p>				

* アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。